

研究結果報告書

辛亥革命の志士「何天炯」と日本

所属：中国社会科学院近代史研究所

役職：研究員

氏名：李長莉(他1名)

本研究は19世紀から20世紀初頭にかけて、孫文や黄興など辛亥革命の指導者に大きな関係を持った何天炯（1877-1925）と日本との関係を研究するものである。これまでの情報及び資料を基に、東京、京都、神戸などの図書館や資料館を訪問しながら情報収集を行いました。研究成果は下記の通りとなります：

一、学術会議に参加して論文を発表：

2015年12月5-7日、愛知大学の東亜同文書院大学 記念センターの開催した国際シンポジウム「近代日中関係史の中のアジア主義～東亜同文書院と東亜同文会～」に参加し、『宮崎滔天と孫中山の広州非常政府の対日外交～何天炯の宮崎滔天へ書簡を中心として～』の論文を口頭発表することが出来た。同題の論文は愛知大学の『同文書院 記念報』（VOL.24 2015年度版）に掲載された。

二、二冊の本を編集予定（発刊予定）

1、『何天炯と日本編年史』を編集

何天炯の生涯を年代ごとに調査したことで、特に1903年に日本留学してから日本で行ったいろいろな活動や多数の日本人との交流などを再現することが出来た。また、孫文の革命運動期における何天炯の活動も調査した結果、今まであまり研究されていなかった孫文が主導した国民革命と日本との関係も明らかにすることが出来た。

2、『何天炯集』を編集

現存している何天炯の文章、書簡、資料、墓誌、写真などを収集し、さらに今回の研究を通じて得た新たに発見出来た事実などを加えることが出来た。

収集した資料の中で、特に、1911-1922年の間に、宮崎滔天に送られた何天炯の百通ぐらいの書簡には、孫文と黄興らの革命党の活動について内容が多く含まれている貴重なものだった。これら書簡を含めて、いままで公開されていない貴重な歴史資料も多く見つけることが出来たため、学術的に非常に価値が高い研究となった。

今回の研究成果が、辛亥革命と日本との関係についての研究に対して、何らかの役割を果たすことが出来ればと考えている。

研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

題名：『宮崎滔天と孫中山の広州非常政府の対日外交～何天炯の宮崎滔天へ書簡を中心として～』

発表者名： 李長莉

会議名：国際シンポジウム「近代日中関係史の中のアジア主義～東亜同文書院と東亜同文会～」

日時：2015年12月6日

場所：日本愛知大学豊橋校舎研究館

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

題名：『宮崎滔天と孫中山の広州非常政府の対日外交～何天炯の宮崎滔天へ書簡を中心として～』

発表者名： 李長莉

論文掲載誌：『同文書院 記念報』VOL. 24, 2015年度, 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

1、『何天炯と日本編年史』（中文約25万字），李長莉、刘静編著，中国社会科学出版社2016-2017年予定出版；

2、『何天炯集』（中文約20万字），李長莉、久保田文次、宮崎黄石共編，中国社会科学出版社2016-2017年予定出版。